平成 27 年度　学校評価報告書（実施結果）

学校目標	取り組みの内容		校内評価		外部の意見	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	現在までの取り組み・達成状況	課題・改善の方法等		
１生徒の進路実現を可能にするための確かな学力の定着を図る	①生徒に高い目標進路意識を持たせる指導とその支援の充実	①生徒の希望進路への対応状況。	①生徒に高い進路意識を持たせるために、各学年の状況に応じたデータを活用した個別面談や保護者面談を実施した。	①面談のより効果的な時期やタイミング、提供データ等の検討や工夫を行う。	（保護者） ・目標大学に進学する為には、どの教科にどのくらいの学力が必要か、資料があるとよい。 ・夏期講習や土曜講習は効果があるものである。より多くの生徒が参加できるような方向になるとよい。また、部活動や試合と日程が重なり受講しづらいようだ。 ・「未来の夢講座」の職業体験講座は実感がわいてよかったようだ。もう１～２つ参加できるとよい。 ・保護者との情報共有を更に検討していただきたい。 （学校評議員） ・「自分M・A・P」や「未来の夢講座」について中学校に対してもっとＰＲをしたほうがよい。	（学校評価） ○　いわゆる難関私立校への合格者が前年度実績の 69 名から平成 27 年度は 94 名に増加した。習熟度別授業、種々の講習、授業改善の取組等が、トータルに機能した結果と考えられる。 ○　夏期講習・土曜講習への参加状況から、生徒の進路実現への目的意識の向上を見て取ることができる。 （改善方策等） ○　国公立大学への進学者が増加するよう、確かな学力の育成を図る取組を更に進める。
	②習熟度別授業の充実と効果的な授業展開の工夫改善	②習熟度別授業の有効性の確認。	②効果的な授業展開、特に生徒の論理的判断力や表現力を伸ばす授業展開に向け、教材や教授方法を共有し、同一教科だけでなく、他教科教員との情報交換、研究協議をさらに密にするよう努めた。	②思考力・判断力・表現力を育成するとともに、しっかりとした基礎学力を定着させるための改善や、学習に対する積極性・自主性、達成感を高めるための改善を図る。		
	③夏期講習・土曜講座の内容の充実と、参加生徒の増加への指導	③生徒の希望と実態に応じた夏期講習・土曜講座が実施できたか。	③生徒へのアンケートを行い、要望に応じた講座を開講することができた。 ③数学科の土曜講習で全学年対象の講座を開講し、参加生徒が増加した。講座の内容を分野ごととし、基本・標準・応用レベルに対応させ、生徒の学力向上につなげる手立てができた。 ③夏期講習は 72 講座（延べ 1032 名）という実施状況であった。	③講座のさらなる充実を図り、参加生徒数の増加を目指す。		
	④「じぶんM・A・P」の充実による進路への目的意識と進路実績の向上	④「じぶんM・A・P」の有効活用ができたか。	④「目標設定」と「振り返り」を通して自分自身を見つめさせ、研究学術機関訪問研修や大学等説明会では、事前事後指導も活用しながら情報の整理やまとめ等を通して進路意識を高めた。	④研究学術機関訪問研修や大学等説明会については、３年間の進路支援行事の見直しの中で、より効果的な実施時期や実施形態なども含めて検討を行う。		
	⑤模擬試験結果を各学年の学習指導や面談資料として活用	⑤模擬試験結果を有効活用できたか。	⑤スタディーサポートや模擬試験の実施と、実施後の生徒対象説明会や教員対象研修会等を通して活用できた。 ⑤選択科目説明会や面談において、模擬試験結果を元に生徒へ指導・説明ができた。	⑤生徒の学習状況等をより正確に分析・活用するために、模擬試験への積極的参加を促す。		
	⑥国公立大学ならびに私立難関大学への進学を見据えた受験指導の工夫と充実	⑥国公立大学に二桁の合格者を輩出できたか。難関私立大学への合格者は増加したか。	⑥説明会や研修会、資料提供などを通じて生徒や教員だけでなく保護者に対しても情報提供を行い、理解を深めた。	⑥教員間の情報共有をさらに充実させるために、学年別や教科別に実施していた研修やデータ提供の形態や時期、方法などを検討する。		

学校目標	取り組みの内容		校内評価		外部の意見	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	現在までの取り組み・達成状況	課題・改善の方法等		
２生徒一人ひとりに応じたきめ細かい学習支援と教育相談を充実させる	①個別面談・三者面談に資するデータの提供と充実 ②教育相談コーディネーターを中心とし、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の一層の充実	①面談による生徒理解・保護者との協力態勢が促進できたか。 ②ケース会議等個々の生徒の必要に応じた相談・サポート態勢ができたか。	①定期試験結果や模擬試験結果等を活用して、生徒の現在の学習・学力状況の確認と、今後の手立てについて、保護者と情報共有することができた。 ②ケース会議を生徒の現状を踏まえて、よりきめ細かく踏み込んで内容を検討した。	①面談以外でも、保護者と情報を共有できる連絡体制を築けないか、検討する。	（保護者） ・三者面談の回数をもう少し増やしていただけたらと思う。	（学校評価） ○　模擬試験等の結果について、外部講師を交えた生徒対象の分析説明会や保護者対象の進路説明会を実施するなど、きめ細かな情報提供・学習支援ができた。 （改善方策等） ○　教育相談については、相談週間に限らず必要に応じて適宜実施する。
３教科指導を充実し、確かな学力を身に付けさせる指導を行う	①生徒の家庭学習習慣化に向けた授業の工夫改善 ②確かな学力の向上にむけて授業研究会等を実施生徒の学習への主体性、学習へのモチベーションの昂揚を図る ③研究授業後の授業研究会を活用した生徒の主体性を重視した授業の推進	①生徒の家庭学習が習慣化されるような授業が展開できたか。 ②生徒自らが、自己を律し、主体的に課題に取り組むことができたか。 ③研究授業後の授業研究会に他教科を含む多くの教員が参加し、授業改善に生かすことができたか。	①全学年で個別面談や保護者面談を実施し、各学年の状況に応じた資料等を生徒と保護者に提示し、学習支援や進路実現に向けた理解を深めた。 ①定期テストのテスト結果通知を迅速に行い、テストの振り返りを行った。 ①テスト結果と生徒個々の分析データを生徒に配付することで、生徒が自分の目標を具体的に設定できるように工夫した。 ①年度初めに各教科で、昨年度の授業改善の成果に基づいて、今年度の授業改善テーマを設定した。また、6月に授業見学期間を設定し、担当教科及びそれ以外の教科の授業を見学し、授業改善に役立てた。 ③７月に実施した生徒による授業評価の集計結果の分析を元に、各教科で改善テーマを修正し、その後の授業改善に取り組んだ。	①生徒が家庭学習に自発的、計画的に取り組むよう、授業以外の場面でもさらに工夫する。 ②各教科で授業改善年間テーマを設定し、授業改善に取り組むという方法は定着したが、学校全体の統一テーマをさらに意識して各教科で取り組むように改善していきたい。 ③学習への自主性や積極性、授業の充実感を高める障害となっていることは何かを突き止めるために、生徒による授業評価の結果だけではなく、他の方法も工夫する。	（保護者） ・授業以外の場面でも工夫していただくことで、より効果的な家庭学習の習慣化が図れると思う。家庭学習習慣化の効果的な対策だと思う。 （学校評議員） ・授業評価が７月のデータに比べて改善されているのはとてもよい。このようなデータを中学生に示してほしい。 ・英語の授業を参観したが、話し合いだけでなく教えるべきところをしっかり教えており、最先端の授業を実践していると思う。	（学校評価） ○　生徒が家庭学習に自発的、計画的に取り組むよう、各教科で工夫した取組を実施することができた。生徒が自発的に家庭学習に取り組むように、更に工夫をしていきたい。 （改善方策等） ○　本校の授業研究は各教科を主体として着実に進んでいる。次年度は評価の在り方を中心とした授業研究を推進していきたい。

学校目標	取り組みの内容		校内評価		外部の意見	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	現在までの取り組み・達成状況	課題・改善の方法等		
４キャリア教育の充実を図り、集団における自主的活動姿勢と規範意識を高める	①「じぶんM・A・P」とキャリア教育の有機的な展開の工夫と改善	①生徒が将来を展望することに資するキャリア教育ができたか。	①総合的な学習の時間に「じぶんM・A・P」として様々な講座を設定し、生徒自身の進路意識を高め、今後どう成長していくかを考える機会とした。研究学術機関訪問研修では 10 コース 16 機関、大学等説明会では 29 校 50 講座を設定した ①未来の夢講座では、進路・文化・地域連携の３分類にわたる 40 講座を開講した。今年度は体育館改修工事のため例年通りの発表会は行わなかったが、その代わりとして、受講後は生徒によるＡ３サイズの冊子作りを行い後日回覧した。	①研究学術機関訪問研修や大学等説明会については「じぶんM・A・P」の進路支援行事の見直しの中で、より効果的な実施時期や実施形態なども含めた検討を行う。未来の夢講座については、キャリア教育としての側面の強化が求められている。実施形態、期間、時期、発表方法について抜本的改革に向けた検討を行う。	（保護者） ・行事については、３年生中心として団結し、とてもよいと思う。 （学校評議員） ・進路実績が数字として表れている。偏差値上位校への進学だけを目的とせず、キャリア教育をしっかり実践していることが、結果と結びついている。 ・総合的な学習の時間は、小・中学生と高校生とでは反応が違う。将来の勉強につながればよい。例えば、大磯地区は鳥類観察では専門的に深められる環境にある。 ・地元の理解を深めるように「未来の夢講座」にキャッチフレーズを作ったらよい。	（学校評価） ○　海鳴祭を中心とする学校行事や部活動等を通して、集団における自主的活動姿勢と規範意識を高める取組を着実に実施できた。 （改善方策等） ○　平成 28 年度は、海鳴祭を体育祭部門（６月）、文化祭部門（９月）に分離して実施するので、その実施に向けて検討を深めていきたい。
	②学校行事を通じた生徒のリーダーシップや協力姿勢の育成、および自主的な企画運営への支援	②学校行事において、生徒の自主的計画活動がさらに深まったか。 ②学習との一体化を図る部活動・同好会活動により文武一体を実現できる体制を構築できたか。	②海鳴祭では３年生を中心にリーダーシップを発揮してまとまりのある行事ができた。 ②「文武一体」に励む生徒を育成するため、学年集会や各部活の場において、部活動と勉学（家庭学習を含む）の両立の重要性について生徒に語りかけた。	②来年度から体育祭と文化祭の時期と内容を変更するので、早い段階から対応できるように協議していく。 ②学習と部活動との成果に関連性があることを強調していく必要がある。		
	③部活動・同好会活動の活性化と効率的な運営		③会員数の少ない同好会の在り方について検討を行った。	③同好会については、職員の指導体制の見直しも含めて検討していく必要がある。		

学校目標	取り組みの内容		校内評価		外部の意見	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	現在までの取り組み・達成状況	課題・改善の方法等		
５地域との連携を図るとともに広報活動を活発化し、開かれた学校づくりを推進する	①登校時の通学指導などＰＴＡと連携した交通安全教育の推進	①自転車事故が減少したか。	①ＰＴＡと連携した交通安全指導に取り組んだ。しかし、重大事故に至らないまでも事故件数は減少しておらず、生徒の交通安全意識をさらに高める必要がある。	①交通ルールを正しく理解していない生徒が多いことが分かった。なぜルールがあるのか指導を徹底していく。一時停止の確実な履行等を徹底していく。	（保護者） ・自転車での地域とのトラブルが多いのが気になる。 ・地域交流は、ＰＴＡも協力の下、さらに検討していただきたい。 ・最近はホームページなどで学校の状況などを調べる人が増えている。充実したホームページは学校を理解していただくために有効な手段だ。 (学校評議員) ・部活動も頑張っている。部活動を通した中学校との連携・交流をはかりたい。高校生が中学校に出向いて交流することにより、高校生の自己有用感が得られると思う。	（学校評価） ○　自転車の安全指導については、ＰＴＡの協力により、より実効性のあるものとなったが、自転車通学者 500 名という本校の実情からも、より一層の推進を図る必要がある。 （改善方策等） ○　ホームページを、ＰＴＡの協力も得て全面的にリニューアルする。より効果的な活用について検討をしていきたい。
	②特別活動における地域との連携の推進。地域貢献活動、ボランティア活動、身近な環境に配慮した活動の推進	②ボランティア・地域貢献活動・防災活動等を通じて地域との連携が促進されたか。	②「海の日」にＰＴＡと協働し、有志生徒と有志保護者のおよそ 200 人で大磯北浜海岸清掃を実施した。			
	③迅速なホームページ更新と、学校説明会・オープンスクール等の内容の充実	③学校説明会において、的確な情報提供ができたか。また、その形式は適切であったか。	③ホームページの更新回数が大幅に増加した。特に進路に関する情報が充実した。 ③第１回学校説明会（8/21）平塚市中央公民館の来場者は昨年度より 88 名多い、579 名であった。また、延べ 70 名の生徒達が主体となって説明会を進行できた。第 2 回は 516 名、第 3 回は 415 名、第 4 回は 262 名の来場者があった。今年度は体育館が耐震工事のため使用できない中で、午前・午後に分けて複数会場で同時に進行したが、多くの来場者に満足してもらえた。また、授業見学が企画できなかったため、授業風景をビデオで紹介し、概ね好評であった。 ③90 周年記念事業に向けた実行委員会を立ち上げ、事業を検討するとともに PTA、同窓会との連携を深めた。	③ホームページのデザインの変更やメンテナンスの充実を図り、全面的な刷新を行う。		

学校目標	取り組みの内容		校内評価		外部の意見	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	現在までの取り組み・達成状況	課題・改善の方法等		
６信頼される学校づくりを推進し、事故防止を徹底する	①周辺施設や自治体と連携し防災意識を高める防災訓練の実施	①自治体との連携、協力が推進されたか。	①防災計画に基づき、帰着地別集会、津波・大地震を想定した避難訓練を実施し、防災備蓄物品の点検をした。 ①国の「防災教育を中心とした実践的安全教育総合援事業」の指定を受け、防災アドバイザーの指導のもと、本校の防災対策について根本的に検討を加えた。また、防災アドバイザーによる防災講話を全校生徒対象に実施した。 ①大規模自然災害時に適切に対応できるよう、防災アドバイザーを講師として、全職員対象にしたＤＩＧ（災害図上訓練）研修を実施した。 ①津波災害対策として、校舎内の備蓄品倉庫の整備を実施し、災害時、迅速に食糧等を生徒に配給できる体制を整えた。 ①大磯町政策総務部危機管理課との連携を強化し、大磯町立全公立学校と連携した防災訓練に参加するとともに、大磯町防災ミィーティングに参加して情報共有を進めた。 ①大磯町津波避難訓練日において、津波避難ビルに指定されている本校校舎内部を地域住民に公開し、災害時の対応について地域住民と共同理解を深めた。	①地域・自治体と連携した防災訓練の在り方について、さらに検討を加える。	（保護者） ・今後も自治体との連携を密に行っていただき、生徒の安全を見守っていただきたい。 ・防災訓練も地域の人がどのくらい大磯高校に避難してくるのか分からないので、一度地域と一緒に避難訓練をしてみたらどうか。	（学校評価） ○　平成 27 年度は、津波災害対策について重点的に取り組んだ。大磯町危機管理課を中心とした、地域自治体との連携を強化した。国の「防災教育を中心とした実践的安全教育総合援事業」の指定を受け、本校の津波防災対策をより徹底することができた。 （改善方策等） ○　生徒がより主体的に防災活動に関わる体制を検討する。
	②県教育委員会作成の職員啓発資料・不祥事防止個人シートや新聞報道等を活用し、事故・不祥事防止に係る職員の意識向上を図る。	②校務、校務外における事故不祥事は発生しなかったか。また、事故不祥事に係わる外部講師による研修、校内研修を年に 10 回以上開催したか。	②事故不祥事に係る新聞記事を職員室に掲示するとともに事故防止会議を５回開催した。			○　入学者選抜における採点誤りは受検者に重大な影響を与える。全職員が責任を自覚し、誤りを防止する。